

齋宮歴史博物館

特別展「海の祈り—海浜の神社と伊勢神宮—」

開催期間：2023年10月7日（土）～2023年11月26日（日）



特別展の展示状況



特別展の展示状況



記念講演会の様子



紙芝居の様子

【企画展の内容・目的】

- 人々が航海の無事や安全など海に関わる祭事や神事等の資料から、人知の及ばぬ存在に対する畏怖や地域の歴史、失われつつある文化、風習などを次世代へつなげる
- 鳥羽市立海の博物館と連携した講座、市民グループの紙芝居、記念講演会、地域のショッピングモールで特別展関連のパネル展示およびスタンプラリーを実施するなどにより地域の歴史、失われつつある文化、風習などを次世代へつなげる
- 現代まで続く文化、風習などについての気づき、興味関心をうながし、次世代育成、地域振興にも寄与する

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2023年10月7日（土）～2023年11月26日（日）
- 開催場所：斎宮歴史博物館 特別展示室
- 入場者数：1315人



斎宮歴史博物館 外観



企画展会場 入口

第1章では、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群から、航海の安全と交流の成就を祈る祭祀で用いられた奉獻品（沖ノ島祭祀遺跡出土の銅鏡、紡織具 いずれも複製品 国立歴史民俗博物館蔵）、明治初期の宗像大社（辺津宮、中津宮、沖津宮）境内図（宗像大社蔵）から海上交通の重要性について概観しつつ、当時の人々の想いや願いへの気づきを促した。また、宗像大社境内図のうち中津宮と沖津宮は初公開資料であり明治に至っても、なお宗像大社が大きな役割を担っていたことを紹介できた。



沖ノ島祭祀遺跡出土遺物



宗像大社境内図

第2章では、伊勢湾口に位置する神島に鎮座する八代神社の神宝（銅鏡ほか・重要文化財 八代神社蔵）、青峯山正福寺奉納絵馬（海難絵馬 青峯山正福寺蔵）、海女関係資料（イソテヌグイ、フナダマ 鳥羽市立海の博物館蔵）などから海に生きる人々の信仰を知る契機とした。



八代神社の神宝



海難絵馬

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



イソテヌグイ



フナダマ

第3章では、河川を舞台に行われる疫病退散を願い牛頭天王を祀る「津島天王祭」に関する屏風（「津島祭礼図屏風」津島市・愛西市蔵 綴プロジェクトによる高精細複製品）、浮世絵のほか、今年270周年を迎える「大淀祇園祭」（三重県多気郡明和町）では海上巡行が行われることから祭礼の資料を展示することで、地域に伝わる海浜の祭礼を知る契機とした。



津島祭礼図屏風



「大淀祇園祭」祭礼資料

第4章では、明治の初めに廃止された伊勢神宮の祭祀のうち、初公開となる御饌に関わる「贅海神事」資料（個人蔵）から、伊勢神宮と海との関係、失われた祭祀について知るとともに、地域文化の中での海の重要性に気づききっかけとした。また、明治以降の海の安全を守る重要な施設である洋式灯台について開設150周年を迎える菅島灯台（鳥羽市立海の博物館蔵）と安乗埼灯台（鳥羽市立図書館蔵）の模型を展示した。さらに、エントランスホールにおいて特設の展示コーナーを設置し、鳥羽海上保安部の協力により灯台の役割などを紹介するパネル展示、同保安部保管の公文書から近代以降の海の安全を守る姿を紹介した。



「贅海神事」関係文書



「贅海神事」関係資料



菅島灯台と安乗埼灯台（模型）



灯台を紹介する特設展示コーナー



鳥羽海上保安部保管公文書類



（灯台）点灯時間表

【来館者の声】

- 神島（八代神社）の祭祀遺物から古代人の海への恐れを学べた
- イソテヌグイから海女さんが漁から無事に帰れるように祈っていたことから漁の危険性を学べた
- フナダマや地域の古文書から今よりも昔は、海を恐れ敬っていたことを学べた
- 古文書や御札などから生活に密着していたこと、自然をあがめていたことが学べた

2. 関連事業の内容

■連携講座「海の驚異と海への祈り」

【開催日時】 第1回 2023年10月14日(土) 13:30～15:00
第2回 2023年11月25日(土) 13:30～15:00

【開催場所】 第1回 鳥羽市立海の博物館 映像ホール
第2回 斎宮歴史博物館 講堂

【参加者数】 第1回 20人
第2回 32人

【実施内容・目的】

- 海の文化の発信拠点として知られる鳥羽市立海の博物館と連携し、海の祭りや海の祈りをテーマにした講演会を開催することで、考古学と民俗学の両面から幅広い海の祈りへの興味を持てるようにする。
- 興味・関心を高めることで、当館および海の博物館のファン層を広げ、海に関わる文化に対する意識向上や、活動の基盤につなげていく。



連携講座（第1回）会場入口



連携講座（第1回）会場の様子



連携講座（第1回）の様子

第1回は「神島と海の考古学」として「神宿る島」とも称された神島に鎮座する八代神社の神宝（銅鏡や金属製ミニチュア紡織具など）の来歴や背景などから航路の安全を祈念した祭祀が古くから伊勢湾の入り口に位置する島で行われていたことを知る機会となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



連携講座（第2回）会場入口



連携講座（第2回）会場の様子



連携講座（第2回）の様子



連携講座（第2回）の様子

第2回は「海（漁村）のわざわいと祈り」として、志摩の海女の朝鮮出漁の伝承、県内漁村の遭難記録、漁村に建つ魚介類供養塔、海の博物館に保存されている神社仏閣のお札類や「フナダマサマ」などから、海に生きる人々が、時には命を落とすこともあるさまざまなわざわいを避けるため、古くから操業の安全、豊漁の願い、村の安寧・平穏祈願などを神仏に祈り続けていたことを知る機会となった。

【来館者の声】

- 海の豊かさと怖さ、自然に沿って生活することの大切さを学んだ
- 海について考えることがなくなってきたが、少し考えようというきっかけになった
- 海難事故にまつわる歴史やエピソードから海的环境変化にも関心を持つべきと思った

■かわせみ座で斎王さんの大淀の禊を知ろう!

【開催日時】2023年10月21日(土) 14:30 ~ 15:00

【開催場所】斎宮歴史博物館 講堂

【参加者数】33人

【実施内容・目的】

- 斎宮歴史博物館や明和町で紙芝居活動を行う有志団体の「かわせみ座」と連携して、斎王が大淀の浜で行う「大淀の禊」をとりあげた「ながこひめの斎王えにつき いせの巻」を上演し、斎宮・斎王と海の関わりを知る。
- 同日開催の展示解説会とあわせて斎宮と海の祭や文化についての学習機会とする。



紙芝居会場（講堂）の様子



紙芝居会場（講堂）の様子



紙芝居の様子



紙芝居の様子（禊ぎの場面）

特別展展示解説会の後、斎王と海の関わりについて知る一助として、斎宮・斎王を題材にした紙芝居を上演する活動をしているグループ「かわせみ座」による紙芝居の上演を行った。斎王が大淀の浜で行う「大淀の禊」をとりあげた「ながこひめの斎王えにつき いせの巻」を上演し、幅広い世代に対して、知られざる地域の伝統文化や展覧会に対する興味・関心を高める機会とすることができた。

【来館者の声】

- 斎王の禊ぎについて学べた
- いろいろな形の信仰があることがわかった
- 斎王の生活がよくわかり、禊ぎについても感じられた

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■イオン明和で知る、斎宮と明和町の海の深〜い関係

【開催日時】 2023年10月7日（土）～11日（水）

【開催場所】 明和イオン

【参加者数】 1000名（パネル展示）

45名（スタンプラリー 10月8日のみ）

【実施内容・目的】

- 「イオン明和22周年祭」において明和町と協力してパネル展示およびスタンプラリー（図案：大淀祇園祭）を実施することで、地域の人々に斎宮や日本人との海の関係について知る機会とする。
- ショッピングモールという身近な場所で開催することで、博物館に興味の薄い人々に対しても展覧会の情報発信を行う。



パネル展示の様子



パネル展示の様子

特別展「海の祈り」および「大淀祇園祭」を紹介するパネル展示により、明和町内のほか、周辺地域の人々が、日本人と海との深い関わりについて知るとともに、興味・関心を持つ機会となった。



スタンプラリーの様子



スタンプラリーの様子

江戸時代より続く明和町大淀地区の「大淀祇園祭」をモチーフにしたスタンプラリーにより、明和町内のほか、周辺地域の人々が、地域の海とつながる伝統文化を知るとともに、子どもたちを含む多くの世代が興味・関心を持つ機会となった。

■記念講演会

【開催日時】2023年11月11日(土) 13:30～16:00

【開催場所】斎宮歴史博物館 講堂

【参加者数】41人

【実施内容・目的】

- 海に関わる祭事や神事等の研究者または神職を講師に人知の及ばぬ存在に対する畏怖や地域の歴史、現代まで続く文化、風習などについて講演していただき、見聞きすることの少ない海に対する神事や信仰等について知ること、現代社会で忘れ去られ、失われつつある自然や人知の及ばぬ存在に対する祈りや感謝への気づきへの契機とする。
- 先人たちが継承してきた海についての文化や風習等を次世代へと伝えていく大切さを知る機会を設ける。



会場入口



記念講演会①の様子



記念講演会①の様子

伊勢神宮の祭祀の中で神に供える御饌に関する祭祀が、伊勢の海で行われてきたことを実際の神事などを例に解説してもらうことで、海と神々を結ぶ多様な祭りがあることを知る機会となった。



記念講演会②の様子



記念講演会②の様子

また、御饌に使われる食材の中で海の食材が重視されていたこと、地元の人びとの奉仕に支えられていたことなどを例に解説してもらうことで、神宮の祭祀で伊勢の海の恵みが重要視されていたことを知る機会となった。

【来館者の声】

- 伊勢の海の海産物の大切さ、海が清浄な場所であることが学べた
- 海浜で行われる種々の神事を知ることができた
- 祈り＝海と共に生きる古代の人々の神への祈りを学べた

【事業全体のまとめ】

宗像大社や国立歴史民俗博物館などの遠方に所在する機関からの資料を借用できたことにより、「海」との関わりがわが国にとって欠くことのできないものであったことを紹介する事が可能となった。また、海上保安部との連携により近代の海の安全確保の紹介のほか、地域に埋もれていた神事関係の一次資料の公開、地元の祭事資料の展示により、「昔は海を恐れ敬っていたこと」「海の環境変化にも関心を持つべき」「祈り＝海と共に生きる古代の人々の神への祈り」など「海」への関心を高めるとともに、失われた神事や地域史の再発見などのきっかけづくりとなった。

3. 主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称 | 連携・協力の内容 |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 鳥羽市立海の博物館 | 展示資料の借用、連携講座の開催 |
| 2. 鳥羽海上保安部 | 展示資料の借用 |
| 3. かわせみ座 | 紙芝居の上演 |
| 4. 明和イオン | パネル展示、スタンプラリー |
| 5. 大淀地区自治会（東、東大淀、三世古） | 大淀祇園祭関係資料の借用 |
| 6. 三重県生涯学習センター | みえミュージアムセミナー（講座、パネル展示） |

4. 主な広報結果について

| 掲載媒体名 | 見出し、掲載日 |
|---------------|---|
| 1. 伊勢新聞 | 斎宮歴史博物館で特別展「海の祈り」 9月1日 |
| 2. 夕刊三重 | 公開の無事祈願した資料など 10月4日 |
| 3. 明和町行政チャンネル | 明和町情報番組 め～ナビ 11月2日～9日 |
| 4. 中日新聞 | 海にまつわる神事や風習 11月8日 |
| 5. 夕刊三重 | 4章構成で「海の祈り」展 11月16日 |
| 6. 三重テレビ | 海と日本 PROJECTin 三重 みえの海やに！海の祈り展 12月6日 |

以上